

令和元年 7 月教育委員会定例会 会議録

令和元年（2019）7月23日（火）午後2時、出雲市教育委員会定例会を市民応接室に招集した。

1 会議に出席した委員

教 育 長	榎 野 信 幸
教育委員(教育長職務代理)	小 豆 澤 貴 洋
教 育 委 員	水 陽 子
教 育 委 員	錦 田 剛 志
教 育 委 員	金 築 千 晴

2 説明のため会議に出席した者

教 育 部 長	植 田 義 久
教育部次長（教育政策課長）	建 部 敏 紀
学 校 教 育 課 長	金 築 健 志
児 童 生 徒 支 援 課 長	兒 玉 浩 二
教 育 施 設 課 長	園 山 裕 二
学 校 給 食 課 長	金 森 真 治
出 雲 科 学 館 長	矢 田 浩 一
保 育 幼 稚 園 課 長	鬼 村 修 治
学 校 教 育 課 主 査	山 崎 創
児童生徒支援課課長補佐	渡 部 俊 樹

3 会議の書記

教 育 政 策 課 課 長 補 佐	常 松 晃 好
-------------------	---------

4 傍聴者

1 人

開会

（**槇野教育長**）只今から、令和元年7月出雲市教育委員会定例会を開会します。
本日の会議は、お手元に配付しております日程のとおり行います。

1 出雲市教育委員会感謝状の贈呈

（**槇野教育長**）まず始めに、出雲市教育委員会感謝状の贈呈を行います。教育部 建部次長に進行をお願いします。

（**建部次長**）只今から、出雲市教育委員会感謝状の贈呈を行います。本日、感謝状を贈呈する方は、古川好美様です。贈呈の前に、ご功績につきまして、ご紹介申し上げます。

（ご功績の紹介）

先般開催されました出雲市教育委員会において、出雲市教育委員会感謝状贈呈要綱第5条の規定により感謝状贈呈が決定されましたので、本日、教育委員会感謝状を贈呈するものです。

（槇野教育長、感謝状と記念品を贈呈）

（古川好美様 ご挨拶）

（**建部次長**）以上をもちまして、出雲市教育委員会感謝状の贈呈を終了します。

2 教育長行政報告

（**槇野教育長**）それでは、教育長行政報告を行います。（以下、報告項目のみ掲載）

（1）前回以降の動向

R1.7.2	市議会最終日
R1.7.3	社会を明るくする運動メッセージ伝達式
R1.7.4	教頭会総会・意見交換会
R1.7.8	教育政策審議会
R1.7.9	学校訪問 7.10、7.12
R1.7.10	校長の会議
R1.7.11	小中連携推進委員会
R1.7.17	島根県市町村教育委員会連合会総会・研修会
R1.7.20	JAXA 宇宙飛行士講演会
R1.7.21	参議院議員選挙投票日
R1.7.23	定例教育委員の会議

(2) 今後の予定

R1.7.23	国富小・西田小・鰐淵小・北浜小再編統合推進委員会
R1.7.25	教育政策審議会
R1.7.26	県都市教育長会
R1.7.27	同和教育講演会
R1.7.29	市長・校長会懇談会
R1.7.31	島根県学校栄養士会総会
R1.7.31	事務支援グループ研修会
R1.8.1	県知事重点要望
R1.8.2	市議会全員協議会
R1.8.2	主幹教諭連絡協議会
R1.8.4	戦没者追悼平和記念式典
R1.8.9	校長面接 ～8.27
R1.8.9	教育政策審議会
R1.8.20	教育政策審議会
R1.8.21	校長の会議
R1.8.29	定例教育委員の会議

(3) 県知事（県教委）重点要望

① 「スクールロイヤー」制度について

ア 市町村単位で「スクールロイヤー」制度を導入するには、財政的な負担が大きいため、県において早急に制度の創設を行うこと。

イ 市町村が「スクールロイヤー」制度を実施する場合は、市町村への財政的な支援を行うこと。

② 自閉症・情緒障がい特別支援学級在籍生徒等の進路先の保障について

出雲市内の特別支援学校高等部の対象障がい種に自閉症・情緒障がいを加えるとともに、出雲市内の県立高等学校に通級指導教室の設置を図ること。

③ 不登校児童生徒支援のための施策の充実について

ア 小学校の「子どもと親の相談員」を増員するとともに、中学校にも同様の相談員を拡大配置し、不登校の未然防止・初期対応への一層の拡充を図ること。

イ スクールカウンセラーの配置時間を拡充し、学校教育の相談体制の一層の強化を図ること。また、教育支援センターにもスクールカウンセラーを配置し、それぞれの児童生徒の課題の解決に向けた支援を図ること。

ウ スクールソーシャルワーカーを中学校区毎に配置し、問題を抱える児童生徒の支援の充実を図ること。

④ 特別支援教育の施策の充実について

ア にこにこサポートティーチャー配置事業(小学校の通常の学級)について、非常勤講師の増員を図ること。

イ にこにこサポートティーチャー配置事業(特別支援学級)について、さらなる配置基準の緩和を行い、非常勤講師の増員を図ること。

ウ 通級指導教室担当教員の複数配置や更なる増員を図ること。

エ 重度の障がいがある、あるいは、医療的ケアを必要とする児童生徒の居住地での教育の機会を保障するため、学校看護師を配置し、学校における医療的ケアが可能となる環境を整えること。

⑤ 出雲科学館への理科教員の配置について

教諭3名(加配教員)と長期社会体験研修員1名の派遣を引き続き行うこと。

⑥ 日本語指導が必要な児童生徒に対する支援の充実について

ア 児童生徒支援加配教員を増員配置するとともに、本市が配置している非常勤の日本語指導教員を、県が配置すること。

イ 母語ができる補助者等の配置や教職員研修の充実のため、国県補助事業を継続すること。

ウ 公立高等学校入学者選抜における帰国・外国籍生徒を対象とした特別枠を市内の公立高等学校に設けるとともに、対象生徒の入学後の支援体制を整備すること。

(榎野教育長) 只今の報告で、質問等がありますか。

(各教育委員) ありません。

3 会議録の承認

(榎野教育長) 次に、会議録の承認に入ります。前回6月定例会の会議録について、何か意見等がありますでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(榎野教育長) 特に意見等ありませんので、6月定例会の会議録については承認します。

4 議事

(榎野教育長) それでは、議事にはいります。最初に「議第21号 出雲市立幼稚園における幼稚園運営協議会委員の辞任及び任命について」を、保育幼稚園課 鬼村課長に説明願います。

（鬼村課長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の、議第 21 号について、何か質疑等はありませんか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） 特に質疑等がないようですので、議第 21 号について、承認してよろしいですか。

（各教育委員） 異議なし。

（槇野教育長） ご異議ありませんので、議第 21 号を承認します。

5 協議

（槇野教育長） 次に、協議にはいります。協議（1）「学力調査結果の学校別結果の公表について」を、学校教育課 金築課長 から説明願います。

（金築課長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） それでは、先ず、学力調査結果の学校別結果の公表ということで、例年通り数値を用いないで、文言による表現で公表していくという方式を提案しておりますが、それについていかがでしょうか。

（小豆澤委員） 以前、数値を用いた松江市の様式を参考資料として提示していただいたことがあって、そのときに、「個」を特定するものではないので、出雲市も数値によってみなさんへの理解を進めていく方が良いのではないかという意見だったと思います。

（金築課長） 保護者に対しては、自校が出雲市全体の中でどのランクにあるかというのは、出しておられますけども、広く一般に各学校別で全て名前が出ることによる学校現場の負担感等を考慮すると、数値の公表は控えたほうがよいのではないかというのが事務局の考えです。

（小豆澤委員） そのあたりはお任せしますが、A4用紙1枚にまとめるということも伝え方の、受け取り側の見やすさを改善するという意味合いでしょうから、「資料の見やすさ」という観点からすると、松江市の表示の仕方のほうが見やすかった、数値化の方が見やすかったですよという意見は、もう何年も続けて出ているところだと思います。

（水委員） 各学校別の数字は出す必要はないと思うんですけども、やはり、出雲市、県、全国の平均という3つの数字は、出てもよいのではないかなと思います。それと、この

様式は全て文字なので、「9ポイント」ということもあって、なかなかすべて見るのは大変ではないかと思います。やはり松江市はグラフ化されている部分もありましたよね、表現力とか、読解力とか、ああいうグラフとか用いることと、数字が1箇所掲載してあると、市民のみなさまも理解しやすいのではないかなと思います。

（錦田委員） 昨年の議論も思い出しているところですが、国レベルでそもそも議論されたことを踏まえると、そのために高い費用をかけて全国で実施しているのだから、私は、個別の数値を出すことは、問題ないのではないかと今でも思っています。そのことで、どこにどのような問題が生じるかイメージできないのですが、ただ、みなさんがこれでよいとおっしゃるということは、「落としどころ」なのかな、と思ったところです。私自身の見解は、全て出すべきであろうということですが、その上で、検討された結果がこれであるならば、従おうと思います。

（金築委員） 今お話を聞いているところでは、錦田委員の意見もわかりますし、反面、保護者等各方面への配慮も必要なのかなとも思います。でも、最低、出雲市、県、全国の平均という3つの数字は、あってもよいのかなと思いますし、水委員が言われたように、文字だけではなくグラフ化等されているとわかりやすいのかなと思います。「ホームページで公表」とありますので、その際には視覚的にわかりやすいほうがよいのかなという気はします。

（錦田委員） 各学校の保護者宛には、詳細なデータが提示されるのでしょうか。

（金築課長） 3ページの表の項目2(1)に、「自校の平均正答率を転記する」とありますが、この部分が、「保護者・地域学校運営理事会報告用シート」に記載されることとなります。

（錦田委員） わかりました。

（水委員） 教員には、担当するクラスの児童生徒が市内でどのくらいの点数であるかフィードバックはできているんですか。教員も、自校の情報しかないのか、どちらですか。

（金築課長） 学校には全ての児童生徒の成績が戻ってきていまして、ちょっと脱線するかもしれませんが、それを基に作成された個々に応じた学習プリントが個別に出てくるようなシステムがありまして、今年度から何校か、手挙げ式ですけども「プリント配信システム」というものを入れさせていただいていまして、それで、ご質問の回答としては、先生は全て把握していらっしゃいます。

（水委員） わかりました。

（榎野教育長） 保護者と地域の方には数字を出してくださいということは、最初の段階

から言っております、その際に自校と市・国・県の平均と対比できるかたちで出してくださいというお願いはしていますので、学校によって違いはあるかもしれませんが、基本的には、保護者を中心に地元にはその学校の学力調査結果のレベルというか、こういう状況にありますよということは、わかっていると思います。

一方で、全体を出すと、すぐに序列化され、順番に並べ替えて新聞に載るというようなことになりますので、一番最初に数値公表するかしらないかということで校長会とかなりやりとりをしたんですけども、序列化につながるし、全体を出すことのメリットとデメリットを考えると、その必要はないのではないかというのが当時の議論です。この教育委員会の場合でも賛否いろいろありましたけど、その段階では文言による表記ということで決着し、それ以後、何年か続いているという状況です。ですので、必ずしも数値を出さないということではなくて、状況を見ながら、やはり全体の数値を出そうというようなことになればそれはそれでよいと思いますし、その際には、また、校長会とも議論を深めた後に、お互いが納得の上で公表できたらと思っています。

（小豆澤委員） 公表するメリット・デメリットを考えたときに、学校関係者にはデータが全てあるのであれば、例えば、学校内で算数の比較が1組、2組、3組でできれば、良い点数のところの先生に悪い点数のところの先生が教えを請うとか、A学校の算数の点数が他校に比べてずば抜けてよいので、うちの学校でも情報共有を図りたい、とか、そういうことであれば、関係者内だけの公表でも十分なメリットがあると思うんですけども、そういったことが盛んに行われているのでしょうか。

（金築課長） おっしゃるとおりでして、我々としても、そういうふうに活用していただきたいということは、都度都度説明もしますし、この学力調査の結果が返ってきたときに、各学校から出てきていただいて、研修も含めてやるんですけども、そういう活用の仕方をしてくださいねということは、お願いはしているんですけども、実際現場への追跡まではしていません。

（植田部長） 先ず、学年部の中で、クラス間の差などについては協議をしながら、学年全体で対策をするということはやっています。学校間でそれを行っているかというとなかなかできない状況です。その代わりとして、公開授業研究会というふうなことはしていますけど、頻繁にはできなくて、課題であると感じています。

（小豆澤委員） 今の時代は、動画配信ということもできるので、皆さんお忙しい中ですが、せっかくのデータをどう活用するかが大事だと考えるのなら、やってみてどうだったかというところまで追いかけてみるとよいのかなと思います。

（水委員） 「9月17日までに事務局に提出」とありますが、作成する教員の方は、小さな文字を埋めていくのは大変な作業だと思いますので、文言表記にするのならば、簡潔かつ視覚に訴えるかたちを取られて、これに時間をあまりとられないような方法も大事ではないかと思います。

（槇野教育長） 大分簡潔になったんですよ。ただ、おっしゃるように、もう少し視覚的にわかる工夫をしてみたらと思います。それと、先ほどの有効活用ということにつけて、2つの面があるかなと思っていまして、1つは、結果を受けて、自分のクラスの状況はこうだから、こういうことに力をいれていかなければいけない、要は子ども中心の見方、もう一方は、先生自身の指導力というか、それをどう高めていかなければならないか、という両面あると思うんですよ。どちらが重視されているか現場の状況を想像すると、子ども重視の使われ方が多いかなという印象を私は持っています。自分の指導力を高める取組をしている教員もいるかとは思いますが、両面で有効活用してもらいたいなというふうには思います。

（槇野教育長） それでは、いろいろご意見いただきましたが、全体の公表に当たっては、文言表記ということ、それから、様式も今回見直しをしましたが、その上で更なる見やすさをとということで、そこは工夫をしながら、今年度の公表に向けて準備を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

6 報告

（槇野教育長） では、続いて報告事項に入ります。報告（1）「令和元年度（2019）始業式及び終業式一覧」について、学校教育課 金築課長 に説明をお願いします。

（金築課長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告について、何か質問等はありませんか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） 次に、報告（2）「学校閉庁日について」を、同じく 学校教育課 金築課長 に説明願います。

（金築課長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告について、何か質問等はありませんか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） 次に、報告（3）「携帯電話の導入について」を、教育部 建部次長 に説明願います。

（建部次長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告について、何か質問等はありませんか。

（植田部長） 付け加えですけれども、この携帯電話の導入につきましては、校長会から強い要望がありまして、6月の校長会で要望があつて、7月には配備できたという、迅速に対応ができたということでお知らせをしておきます。

（錦田委員） この携帯電話は、各学校で教頭先生なり、主幹教諭なり、どなたが持たれるか、というのは、校長先生の判断で決定されますか。

（建部次長） はい。それぞれ地域のいろんな関係がありましようから、学校の判断でお願いしています。

（槇野教育長） ほかはよろしいでしょうか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） 次に、報告（4）「学校訪問について」を、同じく教育部 建部次長 に説明願います。

（建部次長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） それでは、順番に感想、ご意見をお願いします。

（小豆澤委員） 以前から申しあげているんですけども、幼稚園で、園児たちの手の届く範囲に洗剤などが置かれていて、毒性が強いものばかりではないとはいえ、誤飲等発生すると大変だなというようなところは、どの幼稚園でも見受けられたので、そうした管理は気をつけた方がよいのではないかと感じました。

（鬼村課長） 速やかに確認します。

（水委員） 施設の老朽化が目立って、なかなか費用がかかることですので、思うようには進まないかもしれませんが、児童生徒のけがとか事故がないようにということを思いました。それから、エアコンが整備されて、今までの学校訪問に比べると快適に周ることができました。

（錦田委員） 水委員さんのおっしゃるとおり、快適な環境が整備され、これで学力も含めて教育力が向上するとよいなというのが一番の希望であり感想でした。昨年も申しあげましたが、学校によってですが、小学校の児童の姿勢が悪いことが気になりました。教育の基本として、人の話を聞く姿勢や話すときの態度は、もちろん身体的な障害をお持ちの子や様々な状況は加味しなければいけませんけれども、大事なことはないかなと

思います。国際社会に出ると、立ち振る舞いがものすごく大事だということをお聞きしています。TPOにもよるんですけども、義務教育の場で、ある程度躰の一環として「姿勢」というものは大事ではないかと思ひまして、学校によって差があることが気になったというところでございます。

（槇野教育長）「腰骨教育」とか「体幹を鍛える」とか、学校によってはそういうことに重点を置いているところもありますし、そうでないところもありますが、全員が揃ってできるというところまで持っていくには、継続して繰り返しやっていくことが大事であると思っています。それと、「姿勢を正しましょう」という言葉は日常すごい回数で使われている言葉だと思うんですけども、「姿勢を正す」の意味から入らないといけないうだろうなと思いますね。子どもによって「捉え」が違っていたりという可能性も無きにしも非ずですので、正しいところを押さえた上で、全ての学校が同じように取り組まれるような働きかけを教育委員会としてもしていった方がよいという思いは持っております。校長会等、なんらかの機会を捉えてそういった話もしていきたいと思っています。

（金築委員）エアコンもありますし、プロジェクターもありますし、すばらしい環境で勉強しているなとびっくりしました。恵まれているなと思った反面、錦田委員さんおっしゃいましたように、姿勢が悪かったり、だらけていたり、全然授業に参加していない児童もいて、先生も大変かなと思って見ていましたけども、授業がなかなか進まないということがそういうところかなと思ってみたり、先生もあまり強く注意はされないのかなというのもありましたし、低学年で椅子がギーギー騒がしい教室があつて、落ち着かないという印象を受けました。それと、不登校等学校に来られない子がどの学校にもいらっしゃって、わたしたちのときは学校が楽しくて、行かないという選択肢がなかったもので、どうにかして行けるきっかけができればよいなと思いました。

（植田部長）椅子がうるさいという話題は、職員室でもあまり出ないので、校長会などで話をしてみる必要はあるかなと思います。

（槇野教育長）いろいろな意見をいただきましたので、学校のほうにも伝えていきたいと思っています。

7 その他

（槇野教育長）それでは、「その他」に入ります。教育委員会の後援・共催事業について、教育部 建部次長 に説明をお願いします。

（建部次長）資料に基づき説明

（槇野教育長）只今の報告について、質問等はありませんか。

(各教育委員) ありません。

(榎野教育長) その他、委員の皆さま、あるいは事務局の方で、何かございますか。

(各教育委員) ありません。

8 次期教育委員会の開催時期

(榎野教育長) 次期教育委員会の日程ですが、8月29日(木)の、午前10時から、市民応接室で開催いたします。

閉会

(榎野教育長) 以上をもちまして、令和元年7月出雲市教育委員会定例会を閉会します。

(14:28) 定例教育委員会閉会